

校園長室から



学校教育目標

共に学び共に伸びる子ども

- ・いのちを大切にできる子ども
- ・だれとでも仲良く協力し合う子ども
- ・意欲をもち学習する子ども
- ・ねばり強くはたらく子ども

令和6年10月17日 第26号

水

「プノンペンの奇跡」というお話を聞いたことがあるでしょうか。内戦でインフラの破壊が続き、水が人々に供給されない状況が続いていたカンボジアの首都プノンペン。その水対策に国際連合が日本に協力を要請することからその事業は始まります。北九州市の水道局が何人も職員を現地に派遣し、上水道の技術を伝授していき、最終的には水道から出る水が飲めるまでになった……というお話。NHKでも番組化されていました。

さて、「水道の水が飲めるようになった」と聞いて、「おや」と感じた人はいないでしょうか。

いつも当たり前のように水が目の前にあり、それを口にすることができ、当たり前になった我々には、違和感を持つ言葉かも知れません。

一度、調べてほしいのですが、蛇口から出る水を安全に飲める国が世界にいくつあるのか。

東南アジアへ旅行した人に話を聞くと、「絶対に水道水は飲んではいけない」とまず注意されるとか。ヨーロッパに行った人が言うには、水は蛇口からではなく、コンビニなどで買うのが普通だとか。

日本もその昔、水道が普及していないころ、井戸から水をくむのが日常で田舎の町に行けば、離れた川まで水を汲みに行くのが子どもの仕事だったりしました。『おしん』なんてドラマの最初のほうで、主役のおしんが水をくんでたなんて、知らんわなあ。

いよいよ日曜日は、運動会。給水をしっかりと。

そして、目の前にある水は、当たり前のようにあるのではなく、奇跡的にあるのだとわかってほしいなあ。本日、上水道の日。そんなことを思いました。